

令和7年度 第64回

農林水産祭



— 2026.3 —

公益財団法人 日本農林漁業振興会

第64回 農林水産祭式典

令和7年度（第64回）農林水産祭式典は、令和7年11月23日（日）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約650名の方々が参加して行われました。

式典は、鈴木憲和農林水産大臣の主催者挨拶の後、園芸部門天皇杯受賞者の佐藤勲氏が生産者を代表して、明治神宮総代の清野智氏が消費者を代表して、それぞれ収穫感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と表彰状等の授与、ご来賓の紹介、祝電の披露等が行われ、最後に明治神宮の木下龍輝権宮司の万歳三唱により閉幕しました。

農林水産大臣挨拶（要旨）

本日ここに、受賞者を始め、多くの皆様方に御出席を賜り、令和7年度の農林水産祭式典を盛大に開催できますことを、心からお慶び申し上げます。

始めに、今年度、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を受賞された23名の皆様方、誠にありがとうございます。

また、受賞者の御活躍を支え、御苦勞を共にされてこられたご家族の皆様、それぞれの地元地域の関係者の皆様方にも、心からお祝いを申し上げます。

農林水産祭は、国民の農林水産業に対する認識を深め、農林水産業者の技術改善及び経営発展意欲の向上を図るため、昭和37年から、毎年、開催されています。

農産、園芸、畜産、林産、水産などの部門において、それぞれの時代と地域をリードする全国各地の優れた農林水産業者の表彰を行っています。

本日、三賞を受賞された皆様方におかれましても、

- ・スマート農業技術やDXの活用による「生産性の向上」
- ・オリジナル品種や独自の生産工程の導入、量販店との連携等による「新商品の開発とブランド化」
- ・土壌分析や化学肥料の削減等による「環境保全」
- ・地域資源を活かした加工品開発や観光業等との連携による「地域の活性化」

などに取組み、地域の農林水産業や、農山漁村の発展に、多大なる貢献をされてきました。

改めて、皆様方に対し、敬意を表するとともに、今回の受賞を機に、益々、御活躍されることを御期待申し上げます。

農林水産業は、国民に食料を安定的に供給する役割を果たしながら、地域の経済も支えている、国民生活に不可欠な産業です。

昨今、世界的な食料需要の増加や、気候変動、国際情勢の不安定化により、食料供給のリスク等が過去に例を見ないほど増加しており、農林水産業や、それを支える担い手の役割はますます重要になってきております。

私は、農林水産大臣として、現場でご活躍される皆様とともに、日本の食料安全保障の確立と、食の分野で世界に貢献できる日本となるよう、現場で頑張る一人一人の気持ちに立って、先を見通せる農林水産政策を実現してまいります。

本日御出席の皆様方には、私たちにご指導いただきますようお願い申し上げます。

結びに、全国の農林水産業に携わる方々の益々の御発展と、御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



鈴木 憲和 農林水産大臣

《収穫感謝の言葉》



生産者代表
園芸部門天皇杯受賞
佐藤 勲氏



消費者代表
明治神宮総代
清野 智氏

選賞審査報告

審査報告を申し上げます。

農林水産祭中央審査委員会では、昨年7月から本年6月までの1年間に、全国各地で開催された276の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞された453点を対象として、書類審査および現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の三賞の受賞者を決定いたしました。

また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の二賞を選考いたしました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは、天皇杯受賞者の方々について、特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の山形県の株式会社おしの農場は、稲、大豆を130haで栽培する大規模農業法人です。広大な農地を効率的に管理するための各種システムやドローン、トラクターの自動操舵システムなどスマート農業技術を先駆的に導入し、法律に基づく「生産方式革新実施計画」の全国第1号認定となりました。農地の出し手を第一の顧客とする考えにより、地域からの厚い信頼を得ることで農地の集積を進めるとともに、代表のお嬢様二人をはじめ若手社員が働きやすい環境づくりや人材育成に努めています。

園芸部門の群馬県の佐藤勲さんは、収益性の高い農業経営を目指して、海外での研修から帰国後、生産品目を野菜から花壇苗に転換しました。高度な栽培管理技術、園芸店への直接販売、パンジーのオリジナル品種の商品化、戦略的なマーケティングなどの取組により、花壇苗経営では類を見ない高い所得と所得率を実現しています。また、県内外から受け入れた研修生が新規就農を果たすなど、担い手の育成にも貢献しています。

畜産部門の高知県の株式会社ヤマニファームは、スマート化を進めた効率的な肉用鶏の生産を行っています。最新のシステム鶏舎やDX化した飼養管理マニュアルの導入などにより、生産性が飛躍的に向上し、創業から24年で飼養羽数、出荷羽数で四国No1の経営に成長しました。飼料コストの削減等のための飼料ストック基地の建設、鶏ふん肥料の生産配布による耕畜連携、アニマルウェルフェアに配慮した食鳥処理や飼料用米を利用した生産物のブランド化、耕作放棄地を活用したレモン栽培の取組等、優良な肉用鶏経営として高く評価されました。

林産部門の新潟県の大白川生産森林組合は、昭和47年に集落の共有林約1,500haを受け継いで設立されました。平成27年からブナ林育成とブナ材の高付加価値化への挑戦を開始し、乾燥方法の試行を重ねて、木材としての価値を高めつつ、個性を活かした家具材の製作、豪雪による根曲がり部を活用したパークゴルフヘッドの生産等を通じ、ブナ材の販売額向上につなげています。川上から川下までの関係者が連携して、ブナ林の持続的経営とブナ材の有効活用を進める取組は、広葉樹天然林を経営する上で模範となるものです。

水産部門の大分県の浪井丸天水産は、ハマチ生産に特化した小型ブリ養殖業者です。取引先からの要望を反映した魚のサイズの決定や、求められる品質のための飼料開発など、マーケットインの発想に基づく経営を実現しています。種苗の採捕から養殖、加工、販売までを自社内で完結することで、利益率の高い価格決定権を獲得し、経営の安定化を実現しています。また、休憩スペースや託児環境を整えるなど、従業員の満足度向上にも積極的に取り組んでいます。ニッチな需要に着目し、独自の市場を開拓する視点を持った本取組は、他の小規模養殖経営体にも示唆を与える優良な事例です。

多角化経営部門の北海道の株式会社芦別 RICE は、地域の米農家の存続と国内需要の先細りに危機感を感じた地元の若手農家3人が設立した農業生産法人が出発点です。平成27年から米輸出の取組を開始し、香港を皮切りにシンガポール、アメリカと輸出先を広げ、令和6年には協力農家も24戸、228haに増え、1,287tを輸出しており、生産者の取組としては、全国最大級となっています。ロボット田植機や無人トラクターなど最先端技術の導入で作業時間を減少させるとともに道の駅での販売事業、冬季の仕事として北海道内のドローン200台の点検整備を行うことなどで、女性を含め地域の雇用を創出しています。

むらづくり部門の宮城県の入谷の里山活性化協議会は、地域の「食・体験・宿泊」を担う6団体を中心に構成されており、男女様々な世代のメンバーが、幅広い取組を行っています。廃校となった小中学校を宿泊施設や体験施設として再活用し、農作業体験や木工などのモノづくり、パワースポットや里山をツアーコースにするなど多彩なイベントを企画し、雇用を生み出しながら地域資源を上手く活用した取組を行っています。地域全体の総意により、農林業だけでなく文化面も含め総合的なむらづくりを推進している本取組は、全国のむらづくりのモデル事例となり得るものです。

内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞につきましても、「女性の活躍」による受賞を含め、それぞれ素晴らしい皆様方が受賞されました。

本日、受賞された方々に心からお祝いを申し上げますとともに、こうした方々の先進的な取組が全国に普及し、日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念致しまして、審査報告といたします。



農林水産祭中央審査委員会
会長 伊藤 房雄 氏

天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し鈴木農林水産大臣から表彰状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会長から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、鈴木農林水産大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会長賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



天皇杯受賞者



天皇杯授与の様子



内閣総理大臣賞受賞者



日本農林漁業振興会会長賞受賞者

ご来賓の祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の授与後に、内閣総理大臣 高市早苗様からのメッセージと衆議院議長 額賀福志郎様、参議院議長 関口昌一様からの祝電の披露がありました。また、多数の祝電のご紹介をいたしました。

農林水産大臣と三賞受賞者等との懇談会

式典終了後、農林水産大臣と三賞受賞者等の皆様との懇談会が行われました。

懇談会では、まず、根本幸典副大臣のご挨拶の後、受賞者を代表して各部門の天皇杯受賞者から受賞のお礼や今後の抱負等についてお話があり、その後、広瀬健並びに山本啓介大臣政務官から受賞者に対してお祝いの言葉があり、最後に山下雄平副大臣から締めのご挨拶を頂きました。



懇談会の様子

天皇杯等三賞の選賞

令和7年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞）の選賞審査は、7月1日（火）に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。令和6年7月から令和7年6月にかけて全国で開催された276の農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者453点（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月1日（水）の中央審査委員会第2回総会において天皇杯等三賞の受賞者が決定され、同2日（木）農林水産省 Web サイトで公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

天皇杯等三賞選賞の結果

	部門	出品財	受賞者		表彰行事
			住所	氏名等	
天皇杯	農産・蚕糸	経営 (大豆)	山形県天童市	株式会社おしの農場 (代表 押野 和幸)	第53回全国豆類経営改善共励会
	園芸	経営 (パンジー、ビオラ、 カリブラコアほか)	群馬県高崎市	佐藤 勲	第34回花の国づくり共励会花き技術・経営 コンクール
	畜産	経営 (肉用鶏)	高知県幡多郡 大月町	株式会社ヤマニファーム (代表 井上 孝秀)	令和6年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	経営 (林業経営)	新潟県魚沼市	大白川生産森林組合 (代表 浅井 守雄)	全国林業経営推奨行事
	水産	経営 (漁業経営改善)	大分県佐伯市	浪井九天水産 (代表 浪井 大喜)	第30回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (水稲)	北海道芦別市	株式会社芦別 RICE (代表 沼田 哲男)	令和6年度輸出に取り組む優良事業者表彰
	むらづくり	むらづくり活動	宮城県本吉郡 南三陸町	入谷の里山活性化協議会 (代表 阿部 國博)	第47回豊かなむらづくり全国表彰事業
内閣総理大臣賞	農産・蚕糸	経営 (茶)	宮崎県西臼杵郡 五ヶ瀬町	株式会社宮崎茶房 (代表 宮崎 亮)	令和6年度全国優良経営体表彰
	園芸	経営 (モモ、ブドウ、カキ)	山梨県 南アルプス市	有限会社 M.A.C.Orchard (代表 飯野 公一)	第54回日本農業賞
	畜産	経営 (養豚)	大分県竹田市	有限会社荻町高原総合農場 (代表 工藤 厚憲)	令和6年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	技術・ほ場 (苗ほ)	岩手県気仙郡 住田町	吉田 正平	令和6年度全国山林苗畑品評会
	水産	技術・ほ場 (資源管理・資源増殖)	千葉県鴨川市	鴨川市漁業協同組合大海エビ網組合 (代表 江澤 誠)	第30回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (水稲、露地野菜、施設野菜)	愛知県知多郡 阿久比町	有限会社千姓 (代表 都築 興治)	第54回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	福井県今立郡 池田町	農事組合法人 農村資源開発共同体 (代表 山崎 広美)	第47回豊かなむらづくり全国表彰事業
	女性の活躍	女性の活躍	福岡県みやま市	徳永 順子	令和6年度農山漁村女性活躍表彰
日本農林漁業振興会会長賞	農産・蚕糸	経営 (小麦、二条大麦)	佐賀県佐賀市	東与賀農事組合法人 (代表 徳久 繁樹)	令和6年度全国麦作共励会
	園芸	経営 (スイカ)	石川県金沢市	JA 金沢市砂丘地集出荷場西瓜部会 (代表 太平 武士)	第54回日本農業賞
	畜産	経営 (酪農)	北海道紋別郡 興部町	有限会社富田ファーム (代表 富田 泰雄)	第54回日本農業賞
	林産	経営 (林業経営)	茨城県常陸太田市	常陸太田市森林組合 (代表 白石 甲子郎)	全国林業経営推奨行事
	水産	産物 (水産加工品)	山口県下関市	株式会社山賀 (代表 山賀 竜郎)	第56回山口県水産加工展
	多角化経営	経営 (酪農、飼料稲二条麦ほか)	佐賀県嬉野市	有限会社ナカシマファーム (代表 中島 大貴)	令和6年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	鹿児島県霧島市	竹子地区コミュニティ協議会 (代表 岩切 正信)	第47回豊かなむらづくり全国表彰事業
	女性の活躍	女性の活躍 (にんにく)	青森県三戸郡 三戸町	農業生産法人 株式会社よしだや (代表 吉田 清華)	令和6年度農山漁村女性活躍表彰

優秀農林水産業者に係るシンポジウム

農林水産祭では、天皇杯等三賞受賞者の業績を広く普及することを目的として、例年、東京都内及び地方において、シンポジウムを開催しています。

都 内 開 催

【テーマ：森林サービス産業の推進による都市近郊での新たな林業経営】（第40回）

令和7年6月5日（木）に東京都中央区の紙パルプ会館において、令和6年度林産部門で天皇杯を受賞された株式会社 T-FORESTRY の業績を取り上げて、シンポジウムを開催しました。

農林水産省技術会議事務局の島津久樹技術政策情報分析官のご挨拶のあと、農林水産祭中央審査委員会林産分科会の田中浩主査による選賞審査報告、T-FORESTRY の辻村百樹代表取締役による業績発表があり、引き続き、田中主査の進行により、T-FORESTRY の鈴木毅人総括マネージャー、中央審査委員会の葛城奈海委員、森林総合研究所の平野悠一郎主任研究員並びに神奈川県西地域県政総合センター森林保全課の豊永洋子副技幹のパネリストを加えて意見交換や参加者との質疑応答が行われました。シンポジウムは、行政関係者、農林関係団体、関連企業等など70名の方の参加の下、実施されました。

（このほか、Web 配信では約40名の方にご視聴頂きました。）



業績発表の様子



辻村 百樹氏



田中 浩主査

シンポジウム出席者（敬称略）

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	辻村 百樹	令和6年度農林水産祭林産部門 天皇杯受賞 株式会社 T-FORESTRY 代表取締役
コーディネーター 及び選賞審査報告	田中 浩	農林水産祭中央審査委員会林産 分科会主査 (公益財団法人国際緑化推進セン ター技術顧問)
コメンテーター	葛城 奈海	農林水産祭中央審査委員会林産 分科会委員 (ジャーナリスト)
コメンテーター	鈴木 毅人	株式会社 T-FORESTRY 総括マネージャー
コメンテーター	平野悠一郎	国立研究開発法人森林研究・整 備機構 森林総合研究所多摩森林科学園 主任研究員
コメンテーター	豊永 洋子	神奈川県西地域県政総合セン ター森林部 森林保全課 副技幹
挨 拶	島津 久樹	農林水産省農林水産技術会議事 務局研究推進課 技術政策情報分析官
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会常務 理事



パネルディスカッションの様子

地方開催

【テーマ：海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ】（第41回）



業績発表の様子

令和8年2月6日（金）に宮城県仙台市のホテルモントレ仙台において、令和7年度むらづくり部門で天皇杯を受賞された入谷の里山活性化協議会の業績に関するシンポジウムを開催しました。

東北農政局の永井春信局長、宮城県知事、南三陸町長のご挨拶の後、中央審査委員会むらづくり分科会の市田知子主査による選賞審査報告、入谷の里山活性化協議会の阿部忠義事務局長による業績発表に引き続き、市田主査の進行により、同協議会阿部國博会長、阿部博之副会長並びに各コメンテーターによる意見交換や参加者との質疑応答などが行われました。

シンポジウムには、約120名の皆様にご参加いただきました。（このほか、Web配信では約80名の方にご視聴頂きました。）



パネルディスカッションの様子

シンポジウム出席者（敬称略）

区分	氏名	所属・職名等
業績発表者	阿部 忠義	令和7年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞入谷の里山活性化協議会事務局長
コーディネーター及び選賞審査報告	市田 知子	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査（明治大学農学部専任教授）
パネルディスカッションパネリスト	阿部 國博	令和7年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞入谷の里山活性化協議会会長
	阿部 博之	同 副会長
コメンテーター	小谷あゆみ	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員（農ジャーナリスト）
コメンテーター	山内 明美	宮城教育大学教育学部准教授
コメンテーター	長田恵理子	東北農政局宮城県拠点地方参事官
挨拶	永井 春信	農林水産省東北農政局長
	村井 嘉浩 （代読：石川 佳洋）	宮城県知事（宮城県農政部長）
	千葉 啓 （代読：三浦 浩）	南三陸町長（南三陸町副町長）
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会常務理事

【テーマ：スマート農業技術とともに切り拓く地域の持続可能な農業】（第42回）



押野 和幸 代表

令和8年3月11日（水）に山形県山形市の山形国際ホテルにおいて、令和7年度農産・蚕糸部門で天皇杯を受賞された（株）おしの農場の業績に関するシンポジウムを開催しました。

農林水産省の島津久樹技術情報政策分析官、山形県の佐藤隆士農林水産部技術戦略監のご挨拶のあと、中央審査委員会農産・蚕糸分科会の中谷誠主査の選賞審査報告、おしの農場の押野和幸代表による業績発表が行われ、引き続き、中谷主査の進行により、コメンテーター、業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。

シンポジウムには、70名を超える皆様にご参加頂きました。（このほか、Web配信では約70名の皆様にご視聴頂きました。）また、農研機構のご協力により会場で実施したスマート農業技術体験にも多くの方にご参加頂きました。



パネルディスカッションの様子

シンポジウム出席者（敬称略）

区分	氏名	所属・職名等
業績発表者	押野 和幸	令和7年度農林水産祭農産・蚕糸部門天皇杯受賞株式会社おしの農場代表取締役
コーディネーター及び選賞審査報告	中谷 誠	農林水産祭中央審査委員会農産・蚕糸分科会主査（農研機構副理事長）
コメンテーター	宮武 恭一	農林水産祭中央審査委員会経営分科会主査（農研機構農業経営戦略部長）
コメンテーター	中尾 克代	農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員（株式会社D×経営研究所代表取締役）
コメンテーター	矢野 真二	山形県農林水産部県産米戦略推進課課長補佐
挨拶	島津 久樹	農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課技術政策情報分析官
	佐藤 隆士	山形県農林水産部技術戦略監
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会常務理事

天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明

令和7年度の農林水産祭参加表彰行事において、7部門それぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の榮譽に輝いた天皇杯受賞者は、令和8年1月29日（木）に皇居宮殿北溜において天皇皇后両陛下に拝謁し、受賞者の代表から天皇杯受賞に対するお礼言上を行い、天皇陛下から励ましのお言葉をいただきました。



天皇杯受賞者のお礼言上

天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、伊藤房雄中央審査委員会会長及び堺田輝也農林水産省大臣官房技術総括審議官のご先導により、両陛下は、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者のご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご下問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



園芸部門の業績説明



畜産部門の業績説明

天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影

拜謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿と回廊に囲まれた中庭、二重橋、賢所、生物学研究所（水田）、大道庭園、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、皇居宮殿北車寄せにおいて、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで記念撮影

天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。

2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共催する農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産）として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。

その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。

なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。

3. 天皇杯は、毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の行事において、農林水産大臣賞（約500点）を受賞した者の中から、中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。



令和7年度（第64回）農林水産祭「実りのフェスティバル」

令和7年度の「実りのフェスティバル」は、令和7年10月31日（金）、11月1日（土）の2日間、前年度と同様に東京都豊島区の池袋サンシャインシティにおいて開催いたしました。初日の開場に先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご来場され、根本幸典農林水産副大臣をはじめとする関係者や各地のご当地キャラ、キャンペーンスタッフ等がお出迎えしました。

令和7年度の7部門の天皇杯受賞者の業績を紹介するコーナーでは、写真パネルをご覧いただきながら、農林水産省の堺田技術総括審議官から両殿下へ天皇杯受賞者の業績のご説明が行われ、引き続き、根本副大臣、堺田審議官、山野徹日本農林漁業振興会理事長ほかのご案内により、政府（農林水産省）特別展示コーナー、地域農林水産展（都道府県）コーナー、農林関係団体コーナーをご視察いただきました。

初日は曇り、2日目は晴れで、概ね天候に恵まれ、毎年楽しみにしておられる固定客の来場が多数あったことや他のイベント会場からの人の流れが活発であったことから、二日間で約25,000人の皆様にご来場いただきました。



天皇杯ご視察



天皇杯パネル

政府（農林水産省）特別展示コーナー



有機農業・有機食品ってなんだろう？



日本の農業はすごい！農業遺産を応援しよう



完全養殖ウナギと養殖マグロの現状



気候変動に対応するための研究開発

内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の紹介

令和7年度農林水産祭内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の受賞者をパネルで展示紹介しました。



内閣総理大臣賞パネル



日本農林漁業振興会会長賞パネル

都道府県技術・経営普及展コーナー

都道府県の独自性を有する農業技術や特徴ある農林水産物について、9道県の出展により実物、パネル等で展示紹介されました。



埼玉・山形・北海道



千葉



山梨・福井・愛知



香川・鹿児島

地域農林水産展（都道府県）コーナー

全国各地の農林水産物の試食・試飲、販売が行われ、大勢の来場者で賑わいました。出展された26道県のうち、秋篠宮同妃両殿下には、山形県、埼玉県、長野県、富山県、岐阜県、岡山県、徳島県、高知県、佐賀県、宮崎県の10県の担当部長等から出展产品のご説明を行いました。



ご視察：徳島県

地域農林水産展（都道府県コーナー）

■ ご視察該当県



山形県



埼玉県



長野県



富山県



岐阜県



岡山県



高知県



佐賀県



宮崎県

■ ご視察該当以外の出展道県



北海道



岩手県



秋田県



福島県



千葉県



山梨県



静岡県



福井県



愛知県



滋賀県



山口県



香川県



福岡県



長崎県



大分県



鹿児島県

会場風景



農林水産関係団体コーナー

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、農林水産関係団体コーナー 13 団体のうち、「畜産技術協会」並びに「全国農業協同組合中央会（JA ひろば）」をご視察されました。

また、来場者が参加できる体験コーナーやクイズ、試食・試飲が楽しめるコーナーなど各種の展示が行われ、賑わいました。



(公社) 畜産技術協会



(一社) 全国農業協同組合中央会（JA ひろば）

■ ご視察該当以外の出展団体



全国い生産団体連合会



全国食肉生活衛生同業組合連合会



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会



全国食肉事業協同組合連合会



(公財) 中央果実協会



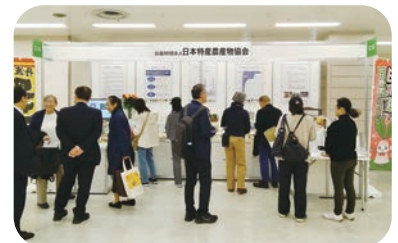
(一社) 日本鯉節協会



(公財) 日本食肉消費総合センター



(一社) 日本畜産副産物協会



(公財) 日本特産農産物協会



(一社) 日本パインアップル缶詰協会



(独) 農畜産業振興機構

体験、ふれあい



農林水産物の贈呈

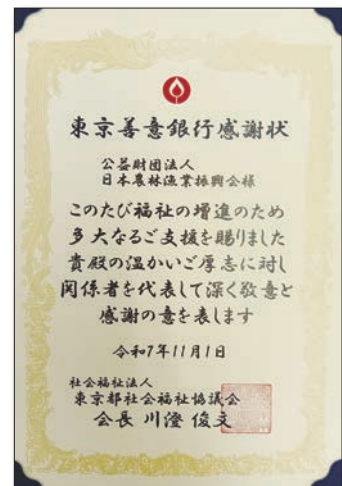
◆贈呈ご協力道県・団体◆

農林水産祭を祝い、実りの喜びを分かち合うとの趣旨で、6道県・2団体から提供された物品はフェスティバル終了後、東京善意銀行を通じて、福祉施設に贈呈されました。

これに対し、社会福祉法人東京都社会福祉協議会から令和7年11月1日付けで（公財）日本農林漁業振興会に対して感謝状が贈られました。これらは、ひとえに農林水産物をご提供いただいた皆様のご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。



北海道（JAグループ北海道（北海道中央会・北海道信連・ホクレン・北海道厚生連・共済連北海道本部）、秋田県（全農秋田県本部）、山形県、山梨県（JAグループ山梨、山梨県農畜産物販売強化対策協議会）、静岡県（静岡県椎茸産業振興協議会）、大分県（大分県椎茸振興協議会・豊後別府湾ちりめん協議会）、JA全中、全国花みどり協会（日本花き生産協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本生花商協会、日本インドア・グリーン協会、JFTD、日本いけばな芸術協会、花の国日本協議会）（順不同）



農林水産祭事業の概要

目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と(公財)日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」(毎年11月23日に開催)と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の2本柱で行われています。

実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいています。

内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞



内閣総理大臣賞は、農林水産祭における三賞のひとつで、天皇杯・日本農林漁業振興会会長賞と同様に過去1年間に農林水産大臣賞を受賞された約500の出品財の中から、中央審査委員会における慎重かつ厳正な審査を経て部門毎に決定される大変名誉ある賞です。農林水産祭では昭和52年度の第16回から授与されています。



日本農林漁業振興会会長賞は、農林水産祭における三賞のひとつで、天皇杯・内閣総理大臣賞と同様に過去1年間に農林水産大臣賞を受賞された約500の出品財の中から、中央審査委員会における慎重かつ厳正な審査を経て部門毎に決定される大変名誉ある賞です。天皇杯とともに昭和37年度の第1回から授与されています。

公益財団法人日本農林漁業振興会

昭和37年に農林水産祭(当時は農業祭)が国民的行事として実施されることになった際に、全国の都道府県や農林水産関係団体などの幅広い協力を得るための中心的な存在として設立されました。優秀な農林水産業者を表彰するため、宮内庁から天皇杯を下賜された団体であり、農林水産祭とは密接かつ不可分な組織です。

close-up

農林水産祭(通巻第138号)

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。
令和8年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

令和8年3月

〒104-0045 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル4F
TEL 03 (6441) 0791(代) FAX 03 (6441) 0792
URL <http://www.affskk.jp>